

# 畜産試験場だより

No. 2



## 内 容

- 1 「菊久」・「故郷」を知っていますか
- 2 豚人工授精の概要について
- 3 美味しい鶏肉「栃木しゃも」
- 4 イタリアンライグラスの品種は決まりましたか？
- 5 においの話（その1）
- 6 秋はいつ来る？

### 「菊久」・「故郷」を知っていますか

現場後代検定が始まりました。検定対象牛は、家畜改良事業団が飼っている種雄牛で栃木県内で高い能力を発揮してくれると期待している「菊久」・「故郷」です。この2頭を父親に持つ子牛をそれぞれ3頭ずつ、計6頭を5月に導入し、育成しています。

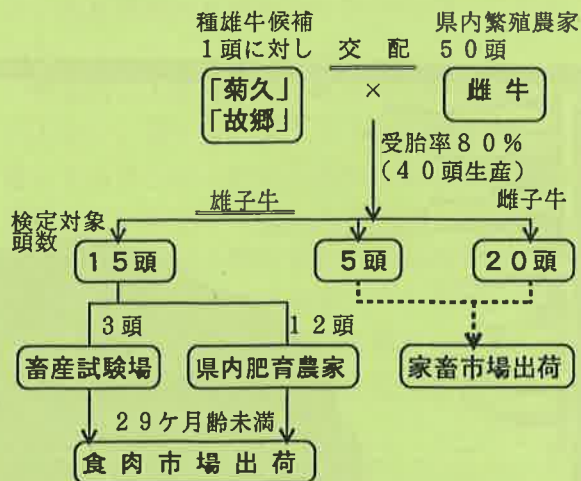
子牛は、父親の持っている能力（産肉性）を調べるために、1日当たりの増体重等を調査しながら肥育して行きます。このように子牛の成績から父親の持っている能力を推定する方法を「後代検定」と呼んでいます。現在栃木県で実施しようとしている検定は、一般の肥育農家にも肥育を実施してもらっていますので「現場後代検定」と言います。これは、「とちぎの和牛品質向上対策事業」の一環として進めております。概要を右の図に示しました。

こうして得られる雄牛の情報を基に、本県の雌牛にあった種雄牛の優れた産肉能力をよ

り早くみつけ出したいと考えています。

なお、肥育成績がまとまるのは、約20カ月後の平成9年1月頃となります。途中経過もお知らせしますが、牛を見たい方は畜産試験場までどうぞ。

### 現場後代検定の考え方



### 豚人工授精の概要について

豚の人工授精は数年前から注目され見直されていますが、その概要と当試験場での業務について紹介します。

まず、豚の交配には自然交配と人工授精とがあります。自然交配は、ご存じのとおり雄と雌が直接交尾することです。人工授精とは、人間が雄豚の精液を採取し、注入器（カテーテル）を使って雌豚の生殖器中に注入することです。

人工授精は、1) 優秀な雄豚の子供をたくさん作れる。2) 伝染病の広がり防止できる。3) 経費や労働力を節減できる。等の利点があり、繁殖成績は精液と器具が万全であれば、自然交配と差がなく、かえって「お得」であると言えます。今後は人工授精が、さらに広く利用されるようになるでしょう。

さて、当試験場では人工授精に関する業務

として精液の配付を実施しています。これは、農家から依頼を受けた時点で当场種雄豚から精液を採取し、低温保存用希釈液で混合した後、農家に配付するものです。価格は1頭分1,000円です。配付件数は年々増加しており、平成6年度は、県内23農家で130頭分の精液を配付しました。また、種雄豚はランドレース種（トチギL）8頭、大ヨークシャー種7頭、デュロック種3頭を飼養しており、随時希望に応じています。

今後は、本県で系統造成されたランドレース「トチギL」を普及推進するために大ヨークシャーの精液配付を重点的に行い、また、手軽に農家の皆さんが配付を受けられるように、宅配便を利用した配付方法や、人工授精習会の開催も考えています。

### 美味しい鶏肉「栃木しゃも」

スーパーなどで販売されている鶏肉は、そのほとんどがブロイラーで、成長速度が速い白色コーニッシュの雄鶏と、大型の白色プリマスロックの雌鶏を交配した鶏です。ブロイラーは飼育期間が約60日と、短期間で肥育され、肉が柔らかく、価格も安いのですが、肉の味にコクがなくちょっと物足りません。

しかし、最近は健康志向や安全性とともに、ブロイラーにはない、昔食べた鶏肉（かしわ）の味、つまり適度な歯ごたえと、コクのある味を求める消費者が増え、これに応えるため、各地でいわゆる地鶏生産が盛んになって来ました。

当試験場においても、様々な試験を行い、地鶏の作出に取り組み、昭和62年には肉味

に定評のあるしゃもの雄と、卵肉兼用種のロードアイランドレッド種の雌を交配した鶏を「栃木しゃも」と命名し、普及推進に努めてきました。

さらに、フランスの地鶏であるプレノアールを用いて改良を加え、より大きく味の良い新たな「栃木しゃも」の生産に成功しましたが、平成7年からその雛を配付しています。

「栃木しゃも」はブロイラーに比べ、飼育期間が約2倍かかりますが、適度な歯ごたえと肉味にコクがあり、脂肪分が少なく、美味しい鶏肉です。

現在では、約1万羽の「栃木しゃも」の雛を配付し、県内14カ所で飼育されています。

### イタリアンライグラスの品種は決まりましたか？

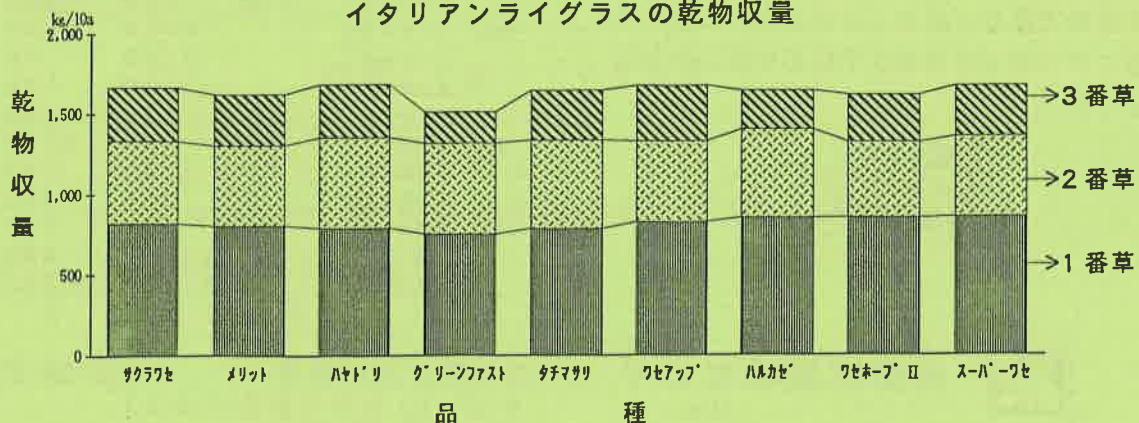
トウモロコシの生育はいかがですか。5月、6月の長雨、日照不足によりトウモロコシの生育はあまりかんばしくないのではないのでしょうか。しかし、そうかといってトウモロコシの収穫をあまり遅らせては、秋播き牧草の播種ができなくなってしまいます。そろそろ牧草の種まきの計画を立ててはいかがでしょうか。

そこで、今回は秋に播くイタリアンライグラスの品種とその収量性を紹介しますので、参考にして下さい。下の図は今年の春に当場で生育調査を実施したイタリアンライグラスの乾物収量を示したのですが、すべて極早

生、早生の品種です。1番草（4月下旬）のみ利用する場合はスーパーワセ、ハルカゼ、ワセホープⅡ、2番草（5月下旬）まで利用する場合はハルカゼ、3番草は（6月下旬）まで利用する場合はハヤドリ、ワセアップ、サクラワセ、スーパーワセがそれぞれ高い収量性を示しました。

なお、中長期、極長期利用（2年利用）の品種に関しては現在調査中ですが、この畜試だよりがお手元に届く頃には収量性の成績がまとまりますので、飼料部までお問い合わせ下さい。

イタリアンライグラスの乾物収量



## においの話（その1）

「くさいものにはふたをしろ」といってられないご時世、3回に分けて「におい」の基礎知識をお話します。

においは人間の感覚による尺度、「臭気強度」で表されます。

- 0：無臭
- 1：やっと感知できるにおい
- 2：何のにおいかわかる弱いにおい
- 3：楽に感知できるにおい
- 4：強いにおい
- 5：強烈なにおい

においは、感覚の強さ（臭気強度）が刺激の強さ（臭気の濃度）の対数に比例すると言われています。簡単にいうと、臭気の強度を4から3にするには90%の、4から2にするには99%の臭気成分を除去しなければなりません。なかなか大変なことです。

現在「悪臭防止法」では22種類の悪臭物質が指定されていますが、その中で特に畜産

施設から発生しやすい物質は、アンモニア（し尿のようなにおい）、硫化物（硫化水素に代表される腐った卵のようなにおい）、低級脂肪酸類（靴下や汗のようなにおい）などです。しかし、畜産施設から発生する臭気は他にもたくさんあって、それらが混ざったにおいなので、個々の物質によってにおいをとらえることは難しいことから、人間の感覚による嗅覚試験法も使われるようになってきました。

家畜のふん尿は微生物によって分解されていきます。微生物には大きくわけて酸素を必要とする微生物（好気性微生物）と酸素を必要としない微生物（嫌気性微生物）がいます。嫌気性微生物は分解の過程で臭気成分を出しやすいので、ふん尿の処理においては、空気を十分に与え好気性微生物の働きを活発にすることが最終的ににおいを少なくします。

## 秋はいつ来る？

2年前の冷夏、去年の猛暑、そして今年は雨に悩まされ、梅雨が明けた後は猛暑でした。

毎年続く異常気象にはもううんざりです。しかし、家畜を飼い、草を育てている皆さんにとっては、そうも言ってはられません。鳥や虫や草花などの自然界の様子を注意深く観察し、来るべき“異常気象”に対処しなければなりません。

今回は宇都宮気象台発表の4月から7月までの生物現象をご紹介しますので、これらを参考に秋の到来の時期を予想してはいかがでしょうか。



| 月   | 生物現象    | 今年  | 昨年    | 平年   |
|-----|---------|-----|-------|------|
| 4月  | スマレ開花   | 2日  | 3/30  | 3/30 |
|     | モンシロチョウ | 3日  | 1日    | 3/22 |
|     | レンゲ開花   | 19日 | 14日   | 14日  |
|     | 雨蛙初鳴き   | 23日 | 13日   | 15日  |
|     | キアゲハ    | 30日 | 27日   | 30日  |
| 5月  | 柿の花開花   | 26日 | 23日   | 29日  |
|     | カッコウ初鳴き | 26日 | 16日   | 21日  |
| 6月  | 栗の花開花   | 4日  | 5/31  | 7日   |
|     | アジサイ開花  | 29日 | 25日   | 24日  |
| 7月  | ヤマユリ開花  | 22日 | 15日   | 13日  |
|     | ヒグラシ    | 17日 | 6/25  | 6日   |
|     | アブラゼミ   | 27日 | 15日   | 20日  |
| 8月  | ミンミンゼミ  |     | 7/30  | 5日   |
|     | サルスベリ   |     | 7/13  | 5日   |
|     | エンマコオロギ |     | 12日   | 13日  |
|     | ススキ     |     | 17日   | 28日  |
| 9月  | 萩の花     |     | 5日    | 8/19 |
|     | 赤トンボ    |     | 6日    | 3日   |
|     | キンモクセイ  |     | 23日   | 25日  |
| 10月 | サザンカ    |     | 17日   | 17日  |
|     | 初霜      |     | 11/5  | 26日  |
|     | 男体山初冠雪  |     | 11/21 | 26日  |



畜産試験場だより

No. 2

平成7年8月10日

栃木県畜産試験場

〒321-33 芳賀町稲毛田1917

電話0286-77-0301

(表紙・版画：泉俊之)